



人道(人道)と神道(神道)の天人関係

Heaven-Human Relationship of Indo and Sindo

大巡思想の天命と神教

- 大巡思想では「天命」と「神教」を通じて人道(人道)と神道(神道)を区分
- 上帝が天命と神教を下し大道を立てさせられたが、甲子年に天命と神教を撤回された
- 辛未年に自ら世に降ることを定めた人身降世の意義

『典經』「豫示」1.参照

神道と人道の核心的差異

- 人道(人道)は人間中心の人為的道、神道(神道)は神明による自然法則的道
- 神明は天地を構成する要素であるため神道は構造的変化を伴う
- 天地公事と並行する神道は天人関係の再定立の形で現れる

「神道(神道)をもって大小の事を治めれば、玄妙不測の功が成就される...運数の巡り着くまま新たな基が開かれる」

『典經』 「豫示」 乃参照

東学思想との比較

東学思想

- 天外天(天外天)の出現を強調するが、人道(人道)の範囲を脱しない
- 神明の存在と役割に対する説明が不足している
- 人間として最善を尽くすことにより、天外天と疎通する人道(人道)の道を選択
- フランス大革命よりも真の元祖の近代思想運動として評価される

大巡思想

- 九天の人身降世(人神降世)を強調し神道(神道)を重視
- 天地神明との疎通を通じた天人関係の再定立の追求
- 人間と神明の調和: 「人爲陽神爲陰」(人爲陽神爲陰)
- 東学思想の限界を超え神道(神道)と人道(人道)の並行を強調

天人関係の再定立

- 大巡思想:天地公事と神道の調和で天人関係を再定立
 - 天地を構成する神明との疎通を通じた構造的変化の追求
- 人道(人道)から離れ神明との疎通を強調
 - 天人合一の新たな方式で人間と神明の調和を追求
- 儒教との差別性
 - 儒教:敬而遠之(敬而遠之)－神明を認めるが(敬)、近づけない(遠之)
 - 大巡思想:神明との積極的疎通と調和を通じた変化の追求

「およそ大小の事を問わず、神道より冤を解かねばならない。まず度数を確固たるものとし調和すれば、それが基となって人事は自ずと成就するであろう。」

『典経』「公事」1-3. 参照

陰陽和と神明の役割

- 人間は陽(陽)、神明は陰(陰)という関係の設定
人爲陽神爲陰(『典經』「濟生」43)
- 陰陽を使いこなしてこそ人間とすることができる
人可用陰陽然後方可謂人生也
- 神明と疎通(感通)してこそ変化の道を開くことができる

「陰陽が互いに和合した後にこそ変化の道がある」(陰陽相合然後有變化之道也)



三界公事と解冤相生

- 上帝の三界公事:相克から相生へ、神明を調和させ万古の怨恨を解消

「我は天地の度数を整理し神明を調和させ万古の怨恨を解き、相生(相生)の道をもって後天の仙境を立てて世界の民生を救おうとする。」

- 神道を通じた解冤の強調- 「およそ大小の事を問わず、神道より冤を解かねばならない」
- 東学思想と西欧的近代性の限界:神明と怨恨という部分を理解できず、結局成功不可
- 天人関係と神人関係の再定立を通じた社会変革の可能性

『典經』 「公事」 1-3. 参照

結論および現代的意義

天人関係再定立の意義

- 大巡思想は人間中心の人道(人道)を超え、神明との調和を強調する神道(神道)を通じて天人関係を再定立
- 相克から相生への転換を通じた社会的変革可能性の提示
- 天地神明との疎通を通じた人間存在の根本的再解釈

伝統思想の継承と拡張

- 儒教仏教道教の伝統を受容しつつ新たなパラダイムを提示
- 東学思想の限界を克服し神道(神道)を通じた根本的解冤を強調
- 現代社会において人間と自然、神明間の調和的関係の模索の可能性